

大項目	中項目	小項目	レベルⅠ:初心者・新人	レベルⅡ:一人前	レベルⅢ:熟達者	レベルⅣ:エキスパート	参考資料	
移植の基礎知識	歴史	移植医療の開発経緯	移植医療の歴史について知る	移植医療の歴史についての疑問やわからないことを自分で調べ理解できる	スタッフの理解や情報収集を促すための指導ができる	最新の移植医療について情報収集ができる	加藤俊一(1992)骨髄移植の歴史. 加藤俊一著, 血液学ハイライト骨髄移植, p2-15, 中外医学社, 東京.	
		移植医療の変遷(治療方法、成績、感染管理など)					正岡徹(1993)骨髄移植の最先端. 看護, 45(12), p104-112.	
移植医療の現状		木村慎吾, 山本要(2001)わが国における造血幹細胞移植対策の現状と課題について, 厚生指針, 48(8), p1-13.						
移植の概要	移植の方法(骨髄破壊的・骨髄非破壊的)	造血幹細胞について(移植ソース、血縁・非血縁、HLA)	移植の基礎概念について知る	移植の基礎概念についての知識を生かし、患者の受ける移植方法、治療経過について理解できる	患者の受ける移植方法、予測される移植経過を理解し、患者・家族の個性を考慮した患者指導のために知識を活用できる	患者の長期的な経過を予測し、移植の意思決定やその他の必要な支援を考慮するために知識を応用できる	Appelbaum FR(2007) Hematopoietic-Cell Transplantation at 50. New England Journal of Medicine, 357(15), p1472-1475.	
							移植治療の経過	原田実根(2008)造血幹細胞移植の歴史. 神田善伸編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(上), p160-165, 医療ジャーナル, 大阪.
							移植治療の経過	小寺良尚(2008)造血幹細胞移植とは. 小寺良尚編, やさしい造血幹細胞移植のアプローチ(改訂版), p 6-7, 医薬ジャーナル社, 大阪.
血液学・免疫学の基礎知識	血液学の基礎	造血のメカニズム 血液成分の機能・役割	疾患の基礎知識を得る	疑問やわからないことを自分で調べ理解できる	スタッフの理解や情報収集を促すための指導ができる	最新の知識について情報収集ができる	正岡徹他(2003)ナースのための白血病ノート(第3版). 南江堂, 東京.	
		免疫システムの機能 免疫担当細胞の機能・役割					権藤久司(2004)疾患別移植の実際. 成績, 治療選択のフローチャート. 小寺良尚, 加藤俊一編, 必携造血幹細胞移植わが国のエビデンスを中心に, p240-389, 医学書院, 東京.	
		腫瘍学の基礎					がんの疫学 発がんの過程・再発・転移・浸潤の過程 がんの治療方法	医療情報科学研究所編(2009)病気がみえるVol.6免疫・膠原病・感染症. メディックメディア, 東京.
対象疾患に関する基礎知識	血液・造血器疾患	移植対象疾患の疫学・概要・経過	指導のもとに、患者の病状を理解するために知識を活用できる	患者の疾患・治療計画・経過の理解のために、知識を活用できる	患者の個性を踏まえて状態をアセスメントするために知識を活用できる	患者・家族のケアを行うために知識を活用し、多職種と討議できる	中島泉他(2006)シンプル免疫学(改訂第3版). 南江堂, 東京.	
		移植対象疾患の検査・診断分類					飯野京子他(2007)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4]血液・造血器. 医学書院, 東京. (2010改訂予定)	
		移植対象疾患の治療方法					Lynn S. Baker著, 細谷亮太訳(1989)君と白血病—この1日を貴重な1日に. 医学書院, 東京.	
		移植対象疾患の移植適応					野村和弘, 平出朝子監, 飛内賢正編(2007)がん看護実践シリーズ11 悪性リンパ腫・白血病. メディカルフレンド社, 東京.	
代謝・自己免疫疾患・遺伝/先天異常	固形腫瘍	移植対象疾患の移植経過	患者・家族の状態のアセスメントに知識を活用できる	患者の個性を踏まえて状態をアセスメントするために知識を活用できる	患者の個性を踏まえて状態をアセスメントするために知識を活用できる	患者の長期的な経過を予測し、移植の意思決定やその他の必要な支援を考慮するために知識を応用できる	野村和弘, 平出朝子監, 牧本敦編(2007)がん看護実践シリーズ13 小児がん. メディカルフレンド社, 東京.	
		移植対象疾患の治療経過					小寺良尚編(2008)やさしい造血幹細胞移植のアプローチ(改訂版). 医薬ジャーナル社, 大阪.	
化学療法	抗がん剤の投与管理	移植対象疾患の治療経過	治療計画を確認し、医師の指示通りに確実に投与ができる	治療の目的を理解し、安全・確実な投与を自立して実践できる	患者の個性に応じた薬剤・状態のアセスメントを行い、積極的に安全・確実・安楽な投与を実践できる	施設での安全・確実・安楽な投与管理のために環境調整を実践し、指導的役割を果たす	水谷修紀編集(2006)特集 小児看護のトータルケアⅠ 化学療法に伴うケアを中心に. 小児看護, 29(11).	
		移植対象疾患の治療経過					濱口恵子, 本山清美編著(2007)がん化学療法ケアガイド. 中山書店, 東京.	
化学療法	抗がん剤の安全な取り扱い	移植対象疾患の治療経過	抗がん剤の細胞毒性を知る 指導のもとに暴露を予防した投与ができる	自立して暴露を予防した投与ができる	適切な抗がん剤暴露対策を実施し、暴露時の対応ができる	施設での暴露対策を多職種と協働してマネジメントできる	本山清美監(2008)総特集チームで行うがん化学療法 安全・安楽な治療と患者支援. ナーシング・トゥデイ, 2008年10月臨時増刊号.	
		移植対象疾患の治療経過					小澤桂子, 足利幸乃(2008)理解が実践につながるステップアップがん化学療法看護. 学習研究社, 東京.	

大項目	中項目	小項目	レベルⅠ:初心者・新人	レベルⅡ:一人前	レベルⅢ:熟達者	レベルⅣ:エキスパート	参考資料				
化学療法	注意を要する急性症状と対応		注意を要する急性症状を知る	観察した症状をアセスメントできる	治療によって起こりうる特有の急性症状を予測し、観察ができる	急性症状出現を予測し、予防を考慮した対策ができる	佐藤禮子監訳, 日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ訳(2009)がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン. 医学書院, 東京.				
			急性症状の観察ができる	急性症状出現時に適切な対応ができる	急性症状出現時に患者の個性に応じた対応ができる	急性症状出現時の対応基準を多職種と協働して予め調整できる	国立がんセンター中央病院看護部編(2009)がん化学療法看護 スキルアップテキスト アセスメントと患者支援の総合力アップをめざして. 南江堂, 東京.				
移植前処置	移植前処置の方法		前処置の目的を知る	患者の疾患・病態に応じた前処置選択を理解できる	個々の患者に選択された前処置レジメンの意義が理解できる	治療レジメンの決定において、患者の医学的・心理社会的側面を考慮し、多職種と協働し関わることができる	品川克至(2008)移植前処置の実践. 神田善信編, みんなに役立つ基礎と臨床(上巻), p220-2231, 医療ジャーナル社, 大阪.				
	前処置レジメンと看護	自家移植	前処置方法の相違を知る	前処置レジメンに特有な副作用症状を理解できる	前処置レジメンに特有な副作用を予測し、適切な看護介入を実践できる	前処置レジメンに特有な副作用を患者の個性を含めて予測し、予防を考慮した看護介入について指導的役割を果たす	名島悠峰, 山下卓也(2009)造血幹細胞移植の方法論 移植前処置の選択. 内科, 104(2), p 233-239.				
		骨髄破壊的同種移植									
		骨髄非破壊的同種移植	代表的な前処置レジメンを知る				神田善伸(2009)インフォームドコンセントのための図説シリーズ 造血幹細胞移植(初版). 医療ジャーナル社, 大阪.				
薬剤・輸血	基礎知識	免疫抑制剤	薬剤・輸血の種類と副作用、投与時の留意点について理解し、説明できる	薬剤・輸血の種類と副作用、投与時の留意点を知る	投与される薬剤・輸血の種類を考慮し、起こりうる副作用を予測し、対処できる	免疫抑制剤や輸血の投与計画について、長期的展望や個性を考慮した上で看護介入が実践できる	星順隆(2004)造血幹細胞移植における輸血. 小寺良尚, 加藤俊一編, 必携造血細胞移植わが国のエビデンスを中心に, p149-151, 医学書院, 東京.				
		造血因子製剤						薬剤・輸血投与時の観察を行い、アセスメントできる	患者に起こりうる副作用をアセスメントし、個性にあわせた指導ができる	小寺良尚他監修, 森下剛久他編(2005)造血細胞移植における輸血療法. 造血細胞移植マニュアル(第3版改訂新版), p492-496, 日本医学館, 東京.	
		輸血(赤血球・血小板・血漿成分)						マニュアルに従い、指示通り投与できる	薬剤・輸血投与に伴う副作用に対応できる	薬剤・輸血投与時の看護についてスタッフに指導ができる	施設内での安全・確実な投与のために、多職種と協働しマニュアルの整備や調整を行うことができる
	投与管理	ABO血液型と輸血適合を知る	同種移植で起こる血液型の変化と投与可能な輸血について理解できる	同種移植で起こる血液型の変化と投与可能な輸血について理解できる	血液型ミスマッチ移植を受ける患者に対し、血液型の変化を説明できる						
幹細胞採取	基礎知識	幹細胞採取の種類	幹細胞採取の種類を知る	採取の具体的方法やリスク・副作用を理解できる	採取時の看護についてスタッフに指導ができる	施設内での安全・確実な採取のために、多職種と協働しマニュアルの整備や調整を行うことができる	笠井雅信(2004)造血幹細胞の採取、調整、移植(同種および自家). 小寺良尚, 加藤俊一編, 必携造血細胞移植わが国のエビデンスを中心に, p102-148, 医学書院, 東京.				
		幹細胞採取の方法	幹細胞採取の方法を知る	採取時の観察を行い、アセスメントできる			山崎裕介他(2004)骨髄・さい帯血バンクの仕組みとドナーへの対応. がん看護, 9(5), p386-392.				
		採取に伴うリスク	採取時の観察ポイントを知る	採取に伴う副作用に対応できる			小寺良尚他監修, 森下剛久他編(2005)移植の準備と造血幹細胞採取. 造血細胞移植マニュアル(第3版改訂新版), p226-243, 日本医学館, 東京.				
	看護	ドナー・患者・家族間に起こりうる問題を知る	ドナー・患者・家族間の問題をアセスメントし柔軟に対応できる	ドナー・患者・家族間の問題をアセスメントし柔軟に対応できる	ドナー・患者・家族間の問題をアセスメントし柔軟に対応できる	倫理的に配慮された意思決定ができるように指導的役割を果たし、調整役となる	日野雅之他(2008)自家・同種骨髄・末梢血幹細胞の採取方法、ドナーの安全管理. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(上巻), p200-205, 医療ジャーナル, 大阪.				
	コーディネートの流れ	骨髄・さい帯血バンクの活動について知る	バンク登録から供給までの過程を理解できる	バンク登録から供給までの過程を理解できる	ドナーコーディネイト業務を理解できる		神田善伸(2009)インフォームドコンセントのための図説シリーズ 造血幹細胞移植(初版). 医療ジャーナル社, 大阪.				
幹細胞輸注	輸注前・中・後の看護		輸注の手順を知る	自家移植および同種移植の輸注を経験し、手順や副作用を理解できる	移植ソース・輸注方法の違いを考慮し、起こりうる副作用を予測した上で対処できる	安全な輸注のための環境調整やマニュアル整備等のマネージメントができる	田野崎隆二(2004)造血幹細胞の凍結保存. 小寺良尚, 加藤俊一編, 必携造血細胞移植わが国のエビデンスを中心に, p141-148, 医学書院, 東京.				
			移植ソースによる手順・副作用の違いを知る	輸注時の観察を行い、アセスメントできる	輸注時の看護についてスタッフに指導ができる						
		輸注時に必要な観察ポイントを知る	輸注に伴う副作用に対応できる								
		指導のもとにマニュアルに従い実施できる									
免疫反応と対応	生着	定義	生着、GVHDなどの免疫反応を知る	各免疫反応の基礎知識を得る	各免疫反応を理解し、適切な看護ケア方法の検討や改善ができる	複雑で長期化する経過を予測しながら、問題を分析整理できる	森下剛久(2004)生着、拒絶、GVHDの臨床. 小寺良尚, 加藤俊一編, 必携造血細胞移植わが国のエビデンスを中心に, p152-155, 医学書院, 東京.				
	生着症候群	病態								小寺良尚他監修, 森下剛久他編(2005)生着と生着不全. 造血細胞移植マニュアル(第3版改訂新版), p436-454, 日本医学館, 東京.	
	GVHD	リスク因子								丸田彦郎(2008)生着の判定とキメリズム解析. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(上巻), p122-127, 医療ジャーナル, 大阪.	
	生着不全	治療方法						指導のもとに知識を活用し患者の状態を観察できる	患者の個性に合わせた看護介入について指導的役割を果たす	患者の個性に合わせた看護介入について指導的役割を果たす	今村雅寛(2008)移植後の免疫回復の評価. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(上巻), p136-141, 医療ジャーナル, 大阪.
	拒絶							指導のもとに、患者の状態をアセスメントし計画された看護ケアを提供できる	患者の個性に合わせた看護介入を実践できる	患者の医学的・心理社会的側面を考慮し、多職種と協働し関わることができる	和気敦(2008)生着不全に対する治療. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(下巻), p102-105, 医療ジャーナル, 大阪.
GVHD(急性・慢性)	診断・治療	診断(鑑別診断)	GVHDの基礎知識を知る	GVHDの基礎知識が理解できる	スタッフの理解や情報収集を促すための指導ができる	最新の知識について情報収集ができる	小寺良尚他監修, 森下剛久他編(2005)GVHD. 造血細胞移植マニュアル(第3版改訂新版), p 276-327, 日本医学館, 東京.				
		発生時期									豊嶋崇徳(2008)GVHDの発症機序. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(上巻), p71-77, 医療ジャーナル, 大阪.
		臓器									豊嶋崇徳(2008)GVHDの発症機序 慢性GVHD. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(下巻), p24-37, 医療ジャーナル, 大阪.
		重症分類									豊嶋崇徳(2009)急性および慢性GVHDの病態・診断. 内科, 104(2), p206-212.
		治療方法									高見昭良(2009)造血幹細胞移植における薬物療法 GVHDの予防と治療. 内科, 104(2), p 262-266.

大項目	中項目	小項目	レベルⅠ：初心者・新人	レベルⅡ：一人前	レベルⅢ：熟達者	レベルⅣ：エキスパート	参考資料			
GVHD (急性・慢性)	看護ケア		出現しているGVHDの症状を観察できる	GVHDの変化を理解し患者のニードを把握できる	GVHD症状に対するセルフケアについて患者・家族に説明・指導・支援ができる	GVHD症状に対して科学的根拠と最新の知識や技術を駆使して、看護ケアが工夫できる	神田善伸(2009)インフォームドコンセントのための図説シリーズ 造血幹細胞移植(初版). 医療ジャーナル社.大阪. 日本造血幹細胞移植学会:造血幹細胞移植ガイドラインGVHD. <a href="http://www.jshct.com/guideline/pdf/2009gvhd.pdf">http://www.jshct.com/guideline/pdf/2009gvhd.pdf</a> 菊池隆秀監:慢性GVHD対策ガイドライン—慢性GVHDの診断とステージング—. <a href="http://www.hsct.jp/focus/0712/fc2.pdf">http://www.hsct.jp/focus/0712/fc2.pdf</a> 岡本慎一郎監:慢性GVHD対策ガイドライン—慢性GVHDの治療とサポーターティブ・ケア—. <a href="http://www.hsct.jp/focus/0712/fc3.pdf">http://www.hsct.jp/focus/0712/fc3.pdf</a> 井上明美他(2002)造血幹細胞移植患者のGVHD対策と看護. 看護技術, 48(11), p1269-1277. 古賀友美(2004)移植患者の皮膚ケア. がん看護, 9(5), p403-407. 山田真由美(2004)造血幹細胞移植患者の口腔ケア. がん看護, 9(5), p408-414. 近藤美紀(2004)腸管GVHDと食事の工夫. がん看護, 9(5), p418-422. 柿木保明, 山田静子編(2005)看護で役立つ 口腔乾燥と口腔ケア 機能低下の予防をめざして (第1版). 医歯薬出版株式会社. 東京. 溝上祐子(2008)認定看護分野のトピクス・ケア1 皮膚・排泄ケアのトピック 褥瘡ハイリスクの脆弱な皮膚の理解. ナーシング・トピクス, 23(1), p5-7. 溝上祐子(2008)GVHD 移植片対宿主病. 溝上祐子, 河合修三編著, 知識とスキルが見てわかる 専門的皮膚ケア, p45-47. メディカ出版. 大阪.			
		GVHDの治療を医師の指示通りに実施できる	GVHDに伴う身体的苦痛を緩和する看護介入ができる	GVHDのケアについてスタッフに指導ができる	GVHDの発症を予測した観察ができ、症状出現時には適切な対応が速やかにできる	GVHD症状に伴う心理・社会的問題に着目し、多職種と協働し個別的な看護ケアが提供できる				
造血幹細胞移植に伴う感染症	移植経過に伴う感染症の治療	グラム陽性球菌 グラム陰性桿菌 単純ヘルペスウイルス 水痘-帯状疱疹ウイルス サイトメガロウイルス EBウイルス カンジダ属 アスペルギルス属 ニューモシステス肺炎 トキソプラズマ症	移植特有の感染症を知る	各感染症の発生時期、予防および治療を理解できる	患者・家族の個性性を考慮し、患者指導につなげることができる	最新の知識について情報収集ができる	日本造血幹細胞移植学会:造血幹細胞移植ガイドライン サイトメガロウイルス感染症. <a href="http://www.jshct.com/guideline/pdf/1999cmv.pdf">http://www.jshct.com/guideline/pdf/1999cmv.pdf</a> 鳥野隆博他(2008)細菌・真菌感染症 サイトメガロウイルス(CMV)感染症 その他感染症. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(下巻), p38-62, 医療ジャーナル, 大阪. 太田秀一(2009)移植後細菌感染症の予防と治療. 内科, 104(2), p246-250. 平本展大, 福田隆浩(2009)移植後真菌感染症の予防と治療. 内科, 104(2), p251-255. 中田潤, 池亀和博(2009)移植後ウイルス感染症の予防と治療. 内科, 104(2), p256-261.			
	移植経過に伴う感染症の看護		指導のもとに、症状を観察できる	患者の状態をアセスメントし、基本的ケアが提供できる	患者の反応、ニードにあわせ、ケア方法の検討や改善ができる	患者個々の感染症リスクを予測し、マネージメントできる				
移植に伴う臓器障害	呼吸器合併症	特発性肺炎症候群 びまん性肺出血 特発性器質化肺炎 閉塞性細気管支炎	移植に伴う臓器障害の存在を知る	病態が理解できる	知識を活用して、患者の症状を関連づけられる	起こりうる問題を予測しながら、患者の変化を迅速に捉え看護実践できる	坂巻壽(2004)その他の合併症. 小寺良尚, 加藤俊一編, 必携造血幹細胞移植わが国のエビデンスを中心に, p188-193, 医学書院, 東京. 小寺良尚他監修, 森下剛久他編(2005)合併症. 造血幹細胞移植マニュアル(第3版改訂新版), p377-418, 日本医学館, 東京. 藤巻克通他(2008)中枢神経合併症 呼吸器合併症 心合併症等. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(下巻), p63-93, 医療ジャーナル, 大阪. 川畑雅照(2009)造血幹細胞移植における呼吸器合併症. 内科, 104(2), p289-296. 大島久美(2009)移植前処置における治療関連毒性とその対策. 内科, 104(2), p241-245.			
	肝障害	肝静脈閉塞症		臨床データを確認できる	臨床データを確認できる					
	血管障害	血栓性微血管症	指導のもとに症状を観察できる	症状を観察し報告できる	苦痛緩和のための看護介入ができる	患者の医学的・心理社会的側面を考慮し、多職種と協働し関わることができる				
晩期障害	2次発がん		晩期障害の存在を知る	発生機序と病態を理解できる	問題に対する相談に応じることができる	発生機序と病態、及び起こりうる問題をスタッフに指導できる	小寺良尚他監修, 森下剛久他編(2005)晩期障害. 造血幹細胞移植マニュアル(第3版改訂新版), p419-434, 日本医学館, 東京. 加藤俊一(2008)晩期合併症. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(下巻), p94-101, 医療ジャーナル, 大阪. 渡邊知映(2008)セクシュアリティに関するカウンセリング. 神田善信編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(上巻), p315-319, 医療ジャーナル, 大阪. 日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)長期フォローアップ委員会監訳(2008)小児がん経験者の長期フォローアップ 集学的アプローチ. 日本医学館, 東京. 末岡 浩(2009)造血幹細胞移植後の女性のQOL対策. 内科, 104(2), p310-315.			
	性機能障害						問題に対して意図的に対応し、必要な情報を提供できる			
	成長障害						最新の知識について情報収集ができる			日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)長期フォローアップ委員会監訳(2008)小児がん経験者の長期フォローアップ集学的アプローチ. 日本医学館, 東京. 神田善伸, 渡邊知映監修:小冊子 化学療法をうける大切なあなたへ そしてあなたの大切な人へ, <a href="http://www1.ocn.ne.jp/~shin0219/pal-shiryu.htm">http://www1.ocn.ne.jp/~shin0219/pal-shiryu.htm</a>

大項目	中項目	小項目	レベルⅠ:初心者・新人	レベルⅡ:一人前	レベルⅢ:熟達者	レベルⅣ:エキスパート	参考資料	
感染管理	感染管理の基礎	標準予防策	必要性を理解し実施できる	場面に応じた予防策を選択し実施できる	コンプライアンスの低下を発見し、改善のための介入が行える	最新の知識について情報収集ができる	矢野邦夫訳(2001)造血幹細胞移植患者の日和見感染予防のためのCDCガイドライン、インフェクションコントロール2001年臨時別冊、メディカ出版、大阪。	
		感染経路別予防策	指導のもとにマニュアルに従い実施できる	患者・家族に必要性和方法を説明し指導できる	免疫不全患者特有の予防策を理解し、スタッフに指導できる	多職種と協働し、マニュアルの整備や調整ができる まれな事例について、多職種と協働し対策を実践できる	矢野邦夫(2002)血管内カテーテル由来感染予防のためのCDCガイドライン、メディカ出版、大阪	
		処置別予防策					大久保憲(2003)医療現場における手指衛生のためのCDCガイドライン、メディカ出版、大阪。	
	移植特有の感染管理	環境管理	感染管理の重要性を知る	指導のもとに、マニュアルに従い実践できる	患者・家族に必要性和方法を説明し指導できる	各種ガイドラインを実践に導入することができる 患者の個性に合わせた判断、対応ができる	最新の知識について情報収集ができる	倉辻忠俊、切替照雄訳(2004)医療保健施設における環境感染制御のためのCDCガイドライン、メディカ出版、大阪
		職員・面会者の感染防止						矢野邦夫、向野賢治訳・編(2007)医療現場における隔離予防策のためのCDCガイドライン—感染性微生物の伝播予防のために—(改訂第2版)、メディカ出版、大阪。
		日常生活上の注意(食事・物品管理等)						日本造血細胞移植学会:造血細胞移植後早期の感染管理に関するガイドライン、 <a href="http://www.jshct.com/guideline/pdf/2000.pdf">http://www.jshct.com/guideline/pdf/2000.pdf</a> 日本造血細胞移植学会:造血細胞移植ガイドライン予防接種、 <a href="http://www.jshct.com/guideline/pdf/2008yobousesshu.pdf">http://www.jshct.com/guideline/pdf/2008yobousesshu.pdf</a>
移植患者の口腔ケア	口腔ケアの基礎	口腔の解剖・生理	口腔ケアの意義と必要性を知る	口腔ケアの基礎知識をアセスメントに活用できる	口腔ケアの必要性と正しい方法について、スタッフに指導的役割を果たす	施設内での口腔ケアシステムについて、多職種と協働して、マニュアルの整備や調整を行うことができる	鈴木俊夫編(2003)JUNスペシャル これからの口腔ケア、医学書院、東京。	
		代表的な口腔疾患	口腔ケアの基礎知識を得る	日本口腔ケア学会編(2008)口腔ケア基礎知識—口腔ケア4級・5級認定資格基準準拠、永末書店、京都。				
		口腔ケアの基本手技	口腔内の観察ができる	適切な薬剤・用具の選択ができる			大田洋二郎編(2006)がん患者の口腔トラブルとケア。看護技術、52(14)。	
	抗がん剤・放射線による口内炎のケア	抗がん剤による粘膜障害	発生機序、二次的合併症を知る	粘膜障害をアセスメントし、適切な看護介入ができる	適切な看護介入についてスタッフに指導的役割を果たす	患者の個性と症状に応じたケア方法の工夫や展開ができる	重症化した粘膜障害に対して、多職種と協働しケア方法を検討し、改善することができる	
		放射線による粘膜障害	指導のもとに粘膜障害の観察ができる	患者・家族に粘膜障害の対処方法について説明・指導ができる	患者のセルフケアを支援できる			
		指導のもとに口腔ケア方法の変更ができる						
スキンケア	スキンケアの基礎	皮膚の解剖・生理	スキンケアの意義と必要性を知る	スキンケアの基礎知識をアセスメントに活用できる	基本的なスキンケアの必要性と方法についてスタッフに指導的役割を果たす	施設内での基本的スキンケアの提供に関して、多職種と協働して、マニュアル整備や調整を行うことができる	日本看護協会認定看護師制度委員会創傷ケア基準検討会編(2002)創傷ケア基準シリーズ(3)スキンケアガイド、日本看護協会出版会、東京。	
		基本的なスキンケア	基本的なスキンケアを知る	患者の皮膚の変化を観察できる	患者・家族にスキンケアの必要性と方法について説明・指導ができる		患者の個性に応じたアセスメントを行い、ケアの応用ができる	溝上祐子、河合修三編(2008)知識とスキルが見てわかる 専門的皮膚ケア。メディカ出版、大阪。
		指導のもとに基本的スキンケアが実施できる					田中秀子編(2008)ナースのためのスキンケア実践ガイド。照林社、東京。	
支持的ケア	栄養	支持的ケアの重要性を知る	支持ケアに関する基礎知識を得る	セルフケアについて患者・家族に説明・指導・支援ができる	科学的根拠と最新の知識や技術を駆使して、看護ケアが工夫できる	多職種と協働し、ケア方法を検討し改善することができる	今滝修(2008)栄養管理 輸液管理、神田善信編、みんなに役立つ基礎と臨床(上巻)、p290-298、医業ジャーナル、大阪。	
	身体機能リハビリテーション						計画された看護ケアが実施できる	患者のニーズを把握し、基礎知識をアセスメントに活用しながら、看護介入ができる
患者教育(セルフケア支援)	自家移植	移植スケジュールとオリエンテーション内容	患者・家族へのオリエンテーションの内容を知る	患者・家族にオリエンテーションする内容の根拠が理解できる	患者・家族へのオリエンテーションの内容とその根拠について、スタッフに指導ができる	患者・家族の個性に応じて、適切な職種からの説明を調整できる	小寺良尚編(2008)やさしい造血幹細胞移植のアプローチ 改訂版。医業ジャーナル社、大阪。	
		幹細胞採取とオリエンテーション内容					西本仁美(2009)自己末梢血幹細胞移植の実際と看護。畠清彦他編、血液がん患者の治療と看護、がん看護1・2月号増刊号、p281-287。	
		経過において必要なセルフケア支援(感染予防策・口腔ケア・活動)					森文子(2009)同種造血幹細胞移植の看護—骨髄移植の場合。畠清彦他編、血液がん患者の治療と看護、がん看護1・2月号増刊号、p272-280。	
	同種移植	移植スケジュールとオリエンテーション	指導のもとに、パンフレットやマニュアルに沿って、患者・家族に必要な内容を説明できる	患者・家族の個性性を考慮して、必要な内容が説明できる	患者・家族からの質問に対して、根拠に基づいて適切に対応できる	患者・家族の移植後の長期的な経過を予測し、効果的なセルフケア支援のために指導的役割を果たす	国立がんセンターがん対策情報センター:がん情報サービス 造血幹細胞移植を受ける方へ、 <a href="http://ganjoho.jp/public/dia_tre/attention/HSCI.html">http://ganjoho.jp/public/dia_tre/attention/HSCI.html</a>	
		経過において必要なセルフケア支援(感染予防策・口腔ケア・活動)						

大項目	中項目	小項目	レベルⅠ：初心者・新人	レベルⅡ：一人前	レベルⅢ：熟達者	レベルⅣ：エキスパート	参考資料	
		退院後の生活に必要なオリエンテーション(感染予防策・活動) GVHDについて必要なオリエンテーション(症状・経過・観察項目) 移植後合併症やGVHDのケア(症状・経過・口腔、目、皮膚のケア・運動) 移植ドナーに必要なオリエンテーション(G-CSF注射・幹細胞採取方法・経過・観察)	患者・家族の説明に対する反応を観察できる	患者・家族の反応に留意し、セルフケア支援を行う上での問題点をアセスメントできる  オリエンテーション、患者教育を計画的に実施できる	患者・家族の現在の反応と移植経過を見通して、個別的なセルフケア支援を実践できる  行った援助を評価し、継続的にセルフケア支援できる	患者・家族の移植後の長期的な経過において、多職種と協働してセルフケア支援を実践できる		
心理・社会支援	患者		患者・家族に起こりうる一般的な問題を知る	患者・家族の問題をアセスメントできる	患者・家族の問題を多角的にアセスメントできる	多職種と協働し、患者・家族の個性に応じた介入ができる	赤穂理絵(2004)先端医療とサイコoncology 造血幹細胞移植におけるサイコoncology. 臨床精神医学, 33(5), 579-584. 矢野邦夫(2004)QOL. 小寺良尚, 加藤俊一編, 必携造血細胞移植わが国のエビデンスを中心に, p210-216, 医学書院, 東京. 及川郁子監修, 田原幸子編著(2005)予後不良な子どもの看護. メヂカルフレンド社, 東京. 赤穂理絵(2005)造血幹細胞移植における精神医学, 精神医学, 47(8). 近藤まゆみ他編著(2006)がんサバイバーシップ がんとともに生きる人々への看護ケア. 医歯薬出版, 東京. 丸光恵, 水谷修紀編集(2006)特集 小児看護のトータルケアⅡ 患者・家族ケアを中心に, 小児看護, 29(12). 森文子(2007)移植患者の看護 ストレスと心理社会的ケア. 血液・腫瘍科, 55Suppl.5, p634-639. 筒井真優美編(2007)小児看護学第5版子どもと家族の示す行動への判断とケア, 日経研出版 吉内一浩(2008)移植患者の心理的サポート. 神田善伸編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(上), p310-314, 医療ジャーナル, 大阪. 丸光恵, 石田也寸志監修(2009)ココからはじめる小児がん看護. へるす出版, 東京. 赤穂理絵(2009)造血幹細胞移植後合併症へのアプローチ 造血幹細胞移植における精神心理的問題, 内科, 104(2), p303-306. 藤村真弓他(2009)特集病児のきょうだい支援. 小児看護, 32(10), p1291-1386. 国立がんセンターがん対策情報センター:がん情報サービス 心のケア. <a href="http://ganjoho.jp/public/support/mental_care/index.html">http://ganjoho.jp/public/support/mental_care/index.html</a> .	
	家族(重要他者も含む)	一般論を頼りに、患者・家族に起こっている問題の情報を収集する	患者・家族の不安や苦痛に対して共感的・支持的に対応できる	患者・家族の意志や価値観を尊重した対応ができる	問題を整理して、積極的介入ができる	患者・家族の看護支援について指導的役割を果たす		
倫理	看護職の倫理綱領		看護職の倫理綱領を知る	指導のもとに、倫理綱領に基づいた看護実践ができる  指導のもとに、医療上の問題を倫理的側面で捉えられる	倫理綱領に基づいた看護実践ができる  医療上の問題を倫理的側面で捉えられる	複雑な問題に対処するために、多職種と積極的に関わり、問題を分析整理できる  倫理的配慮について指導的役割を果たす	ダニエル・F・チャンプリス(1996)／浅野祐子訳(2002).ケアの向こう側—看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾. 日本看護協会出版会, 東京. 加藤尚武, 加茂直樹編(1998)生命倫理学を学ぶ人のために. 世界思想社, 京都. 森慎一郎(2004)移植治療の光と影. がん看護, 9(5), p379-385. 日本小児血液学会(2002)「健常小児ドナーからの造血幹細胞採取に関する倫理指針」. <a href="http://www.jsph.info/JSPH-SCT.html">http://www.jsph.info/JSPH-SCT.html</a>	
	特有の倫理問題	移植適応を考慮する時	移植に関連した倫理的問題の存在を知る		移植に関連した倫理的問題について理解できる	移植に関連した倫理的問題を意識した行動がとれる	複雑な問題に対処するために多職種と積極的に関わり、問題を分析整理できる	J.トンプソン, H.トンプソン著／ケイコ・イマイ・キシ他監訳(2004)看護倫理のための意思決定10のステップ. 日本看護協会出版会, 東京. フライ ST, ジョンストンMJ著, 片田範子, 山本あい子訳(2005)看護実践の倫理 臨床的意思決定のためのガイド(第2版). 日本看護協会出版会, 東京. 日本看護協会編(2006)新版看護者の基本的責務 基本法と倫理, 日本看護協会出版会, 東京. ジョンセンAR他著, 赤林朗監訳(2006)臨床倫理学 Clinical Ethics(第5版). 新興医学出版社, 東京. 赤林朗(2005)入門・医療倫理Ⅰ. 勁草書房, 東京. 赤林朗(2007)入門・医療倫理Ⅱ. 勁草書房, 東京. 森慎一郎(2008)移植診療における倫理. 神田善伸編, みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床(上巻), 医療ジャーナル, 東京.
		インフォームド・コンセントと自己決定の支援の時						
		特殊な倫理的配慮を要する時						
		患者・家族にも協力を得る時						
		臨床試験時						
		ドナーの問題						
移植後の状態悪化時								